



番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考					
10-B1	(都)谷田幸原線(10-A1)道路整備と一体となって、沿道空き地の整備を行い歩行者に憩いの場・休憩の場を提供する。															
C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考
										H21	H22	H23	H24	H25		
10-C1	計画・調査	一般	三島市	直接	三島市	パッケージ中間評価	パッケージ中間評価の実施	三島駅北口からの旅行速度測定等	三島市						2	
10-C2	調査・計画	一般	三島市	直接	三島市	計画	長寿命化修繕計画	修繕計画策定	三島市						7	
										合計				9		
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考					
10-C1	当計画の効率的・効果的展開を図ることを目的として、当パッケージの中間評価を行なうための交通実態調査を行なう。															
10-C2	橋梁の長寿命化修繕計画を策定することにより、橋梁の長寿命化並びに橋梁の修繕及び架替えに係る費用の削減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保する。															

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

その他関連する事業																	
計画等の名称 32 暮らしの安全・安心を創出する“ふじのくに”のみちづくり																	
事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業主体	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
32-A77	道路	一般	三島市	直接	三島市	市町村道	交安	(1) 錦田大場線(第2工区)	歩道整備 L=0.22km	三島市						80	計画74へ移行
32-A107	道路	一般	三島市	直接	三島市	市町村道	交安	(1) 錦田大場線(第2工区) (2) 文教町幸原線(文教町2丁目)	歩道整備 L=0.19km	三島市						66	計画74へ移行
計画等の名称 49 安全で快適な都市空間の形成																	
事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業主体	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
49-A14	S街路	一般	三島市	直接	三島市	S街路	改築	(都) 下土狩文教線	バイパス L=0.57km	三島市						38	計画74へ移行

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(都)谷田幸原線(10-A1)が暫定2車線ではあるが、供用開始したことで、通過交通の排除に寄与し、市街地内の交通混雑が緩和された。</li> <li>・(2)平田新谷線(10-A5)の整備により、市街地内の交通渋滞が緩和されるとともに、周辺都市拠点間のアクセス性が向上した。</li> <li>・(1)錦田大場線歩道整備(10-A6:第4回変更削除)及び(1)錦田大場線歩道整備(第2工区)(10-A10:第4回変更削除)により、児童や園児の通学路として、安全な歩行空間が確保され、車道の通行安全性も高まった。</li> <li>・(1)鎧坂線(文教町1丁目)自歩道整備(10-A7:第4回変更削除)及び(1)鎧坂線(文教町1丁目)電線共同溝(10-A8:第4回変更削除)の整備と合わせて、右折レーンが拡幅整備されたことで、市北部方面から三島駅北口へのアクセスを円滑にするるとともに、文教地区の学校群への通学路として、安全で快適な歩行空間が確保された。</li> </ul>									
	II 定量的指標の達成状況	指標 (三島駅への15分到達カバー人口)	最終目標値	38,000人	目標値と実績値に差が出た要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(都)谷田幸原線バイパス整備による県道交通量の分散効果が大きかったことが考えられる。</li> <li>・(2)平田新谷線の整備による市街地内の交通渋滞の緩和が顕著だったことが考えられる。</li> <li>・伊豆縦貫道の開通(事業外要因)による市内通過交通量の減少が大きかったことが考えられる。</li> </ul>				
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(都)谷田幸原線の道路改良に伴い、沿道の空き地をポケットパークとして整備(若松町公園整備事業:10-B1)することで歩行者に憩いの場・休憩の場を提供した。</li> <li>・パッケージ中間評価の実施(10-C1)により、費用便益分析マニュアルに基づき「走行時間短縮」、「走行経費減少」、「交通事故減少」から便益を算出し、費用便益分析を実施したことで、事業の妥当性を再評価することができた。</li> <li>・長寿命化修繕計画の策定(10-C2)により、橋梁の維持管理・更新に関する優先度を定めたことで、適切な維持管理を図れると共に、効率的なコスト削減が図れるようになった。</li> </ul>									

3. 特記事項(今後の方針等)

・幹線道路の整備、特に(都)谷田幸原線等の環状道路の整備では、接続する放射道路も含めた面的な交通環境を改善することが可能となり、慢性的な市内交通渋滞の緩和や三島駅へのアクセス性の改善を図ることができる。  
 交通渋滞の緩和やアクセス性の改善により  
 ・排出ガスの抑制など環境負荷の小さな交通環境の実現  
 ・災害時の安全性の向上  
 などの効果が期待できる。  
 また、駅及び学校周辺の道路を整備することにより、交通事故のない安全で快適な歩行者空間を確保することができる。  
 以上の様な、さらなる生活環境及び交通環境向上のため、次期計画にて継続して整備を行う事業及び別計画へ移行した事業の完了をめざす。

(参考様式3) 参考図面

計画の名称	10 三島駅へのアクセスを改善する道路整備	交付対象	三島市
計画の期間	平成21年度 ~ 平成25年度 (5年間)		

